

事業者に健康・安全配慮義務

「第9回OCHISセミナー」開催

全国から100人超す参加者

運輸業界の健康起因事故の防止を推進するNPO法人ヘルスケアネット



パネルディスカッションで情報交換したOCHISセミナー

ワーク(OCHIS、理事長・武田裕大阪大学名誉教授、滋慶医療科学大学院大学学長)は24日、大阪市北区の大阪大学中之島センターで「第9回OCHISセミナー」を開催。地元大阪をはじめ東京や九州などのトラック、バス、タクシー事業者ら100人超が参加した。

セミナーはOCHISの設立10周年を記念し、

メインテーマを「どう防ぐ! 急増する健康起因事故Part2」とし、さらに「治療完了までのSASSスクリーニング検査の進め方」をサブテーマに運輸事業者が抱える従業員の健康管理などについて意見交換した。

第一部は5氏による講演で、このうち国土交通省自動車局の小林豊安全政策課長は「事業用自動車の運転者の健康管理」について講演した。小林課長は運行中に運転者が

意識を失い、事故となった状況を記録した映像を示しながら、今年4月に改訂した「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」の活用を呼び掛けた。

また、事業用自動車事故調査委員会の委員長に就任した労働科学研究所の酒井一博所長は「事故要因分析の重要性と安全運行支援について」を講演。事業者に体制として労働者の健康・安全配慮義務が求められることや過労から回復するための

休息の重要性を説いた。

第二部は武田理事長をコーディネーターにパネルディスカッションで、会場から血圧測定や健康管理にかかる自社の問題点、課題を聞き出し、意見交換した。従業員の健康管理が事故など経営上のリスク回避となることを理解していてもコスト面での障害や経営者の理解不足などの問題が提起され、すでに全社を挙げて健康管理に取り組む事例を紹介するなど情報交換した。